



有田2000 ロータリークラブ



No. 994
Club Bulletin

会長 芝 毅
幹事 森 誠
クラブ会報委員長 永石 睦巳

平和と紛争予防 / 紛争解決月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日 / 毎週水曜日 19:00
事務局・例会場 / 〒643-0025
有田郡有田川町土生409
吉備インターゴルフセンター
TEL 0737-52-8960
FAX 0737-22-6800
E-mail : info@arida2000rotary.club
URL : http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

令和5年2月15日（水）第995
ソング「手に手つないで」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
会員卓話 前任君

次回のプログラム

2月22日 細則による休会
3月 5日 有田川町駅伝移動例会
3月 8日 湯浅町立田村小学校
校長 辻信明様

前回の報告（第994例会）

開催日

令和5年2月1日（水）19時00～

ソング 「君が代」「奉仕の理想」

会長の時間 幹事報告 委員会報告 ニコニコ箱
報告 出席報告

会員卓話 南 良暢君

●会長の時間●

会長 芝毅君

皆さん 今晚は！
メンバーの出席ありがとうございます。本日の例会は、会員卓話 南君です。時間たっぷりあります。よろしくお祈りします。

今日からは、2月です。

2月というのは如月と言う
そう。如月を調べてみました。

如月の過ごし方

旧暦では、2月4日前後の「立春」が1年の始まりです。そのため、立春の前日を「季節を分ける日」という意味の「節分」と称し、豆まきをして一年の穢れ（けがれ）をはらい清める風習が生まれました。



豆は「魔を滅する（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。また、まいた豆から芽が出ると縁起が悪いと考えられていたため、炒った大豆を枡へ入れ神棚にお供えしてから使います。

一般的に、一家の主人か、年男（女）が豆をまくものとされています。豆まきの後は、年の数だけ豆を食べると病気にならず、健康でいられるといわれています。年の数だけ食べられない場合は、飲めば食べるのと同じだけご利益があるといわれている「福茶」をいただきます。福豆3粒に梅干しと塩昆布を加え、お湯を注げば出来上がり。年の数の福豆にお茶を注いで飲む場合もあります。

鬼は鰯のにおいと、柊のとげが大の苦手。節分には、柊に焼いた鰯の頭を刺した「柊鰯」を玄関先につけておきます。木へんに冬と書く柊には、冬の寒気をはらうという意味もあります。関西発祥の比較的新しい風習に「恵方巻」があります。福を巻き込んだ巻き寿司を、その年の恵方を向いて、願い事を念じながら無言で丸かじりします。

近年では全国的に広がりつつありますが、古くは「丸かじり寿司」「節分巻き寿司」「幸運巻き寿司」などといわれていました。2月はまだ冬の真っ盛り。寒い日が続きますが、立春を迎え暦の上では春です。立春以降に初めて吹く強い南風を「春一番」と呼びます。

●幹事報告●

幹事 森誠君

英字版 Rotary
例会変更（ホワイト
ボード）
MY ROTARYの研修会
3月6日参加します。
例会終了後、理事役員
会開催致します。



●各委員会報告●

2月お誕生日御祝
南良暢君
森誠君



おめでとうございます。

●ニコニコ箱●

芝毅君：南君 本日の卓話楽しみにしています。
森誠君：みなさんこんばんは！南先生の卓話非常に興味深い内容との事なので楽しみにしています。宜しくお願い致します。
南良暢君：本日は資料を突貫で仕上げっていますが、頑張ります。
中屋喜臣君：皆様お疲れ様です。南先生本日の卓話よろしくお祈いします。楽しみです。
下林善信君：南先生 本日の卓話宜しく、聞いても無駄？ではないと、この間読んだ本に載っていました。
永石睦巳君：南先生 宜しくお願い致します。
前任君：南さん 本日の卓話楽しみです。
加納恒儀様：本日もどうぞよろしくお祈い致します。
大浦輝彦君：皆さんこんばんは！南さん本日の卓話楽しみにしています。よろしくお祈い致します。



●出席報告●

下林善信君

| | 会員数 | 出席者数 | 出席率 |
|-------|-----|-------|-------|
| 本日の出席 | 15名 | 9名 | 60.0% |
| 今年度平均 | | 11.5名 | 76% |

●会員卓話●

進化心理学 南良暢君



私たちは進化によって形成された独自の性質を持つヒトという動物として行動している。この独自の性質が人間の本性である。これは2つのことを意味する。私たちの考え、感情、行動は、生まれてからの経験や環境だけでなく気の遠くなるような長い年月の間に祖先が遭遇した出来事によって形作られているということ。人間の本性は私たちの祖先の過去の体験の集積であり、それが現在の私たちの考えや感情、行動に影響を与えている。さらに、人間の本性は普遍的なもの（人類全体に共通するものもあれば男女に共通するものもある）であり、私たちの考えや行動は全ての人に共通するということである。

人間の行動を決定するのは、生まれ持った本性、それに各人の個人的な体験と育ってきた環境である。

進化心理学は台頭しつつある新しい分野である。1980年代後半に先駆的な論文が数々発表され、1992年にレダ・コスミデスとトゥービーらの論文を収めた「Adapted mind : Evolutionary Psychology and Generation of Culture」が刊行された。しばしば進化心理学のバイブルと言われる。進化心理学は人間の本性を研究する学問である。

「人間の本性」という言葉は、一般的には人間の持つ本質的な性質といった曖昧な意味合いで使われるが、進化心理学では厳密な定義がある。進化によって形成された心理メカニズムないしは心理的な適応の全体が人間の本性である。人間の本性は、進化によって形成された心理的なメカニズムの総体であり、進化し理学は人間の持つそのような心理的な適応を一つ一つ明らかにしていく学問である。では、心理的な適応とは何なのか？心理的な適応とは、私たちが生まれつき持っている思考パターンや感情パターンであり、適応上の問題を解決するために獲得された考え方や感じ方である。私たちはいちいち考えずにものを見たり操作するが、同じように心理的適応はしばしば無意識のうちに働く。私たちが甘いものや脂っこいものを好むのは、進化によって形成された心理メカニズムの1つである。ヒトの進化の歴史を通じて十分なカロリーを摂取することは深刻な問題であった。栄養不良や飢餓が当たり前だった環境では、遺伝子の変異により、高カロリーの甘いものや脂っこいものを好む性質を持つ個体は、そのような好みを持たない個体より肉体的に有利になる。甘いもの好きはそうでない人より長寿を保ち、より健康的な生活を送り、健康な子供を多く残せる。男の嫉妬深さも進化によって形成された心理メカニズムである。ヒトの男性を含め雄は、つが

い相手の子が自分の子かどうか確信が持てない。言い換えると、自分の遺伝子を受け継いでいない子をそれと知らずに育てる「間抜けな、寝取られ男」になりかねない。進化の視点では、よその男の子供を育てるために経済的、情緒的な資源を投じる、寝取られ男は、次の世代に自分の遺伝子を伝えることができず、持てる資源を無駄にすることになる。そのため男には嫉妬深くなる進化的な動機付けが強く働く。しかし、女は子供が自分の子かどうか確実にわかるからその必要はない。この心理メカニズムから、男はしばしば体を張って妻を守ろうとする。これも妻が他の男と性的接触をする可能性を最小限にするための行為である。恋愛関係では、男も女も同じような頻度で、同じように激しく嫉妬の感情を抱くが、何が嫉妬を招くかは、はっきりとした男女差がある。

男性は恋人の性的な不貞に嫉妬することがわかっている。その根底には、寝取られ男になることへの警戒心がある。対照的に、女性は恋人が他の女性に感情的に惹かれることに嫉妬する。感情的な関わりを持てば、自分と自分の子に投じられるはずの恋人の資源がライバルに取られる恐れがあるからである。

標準社会科学モデルでは、ジェンダーの社会化というキーワードで男女の違いが論じられる。ジェンダーの社会化とは、特定の文化または社会の中で、男の子は男らしく、女の子は女の子らしく育てられるから、思考や行動に男女差が生じるという概念である。行動、認知、価値観、好みの性差は、ジェンダーの社会化の産物ではなく、生まれつきの本性からくるものである。男女の脳には構造的な違いがある。ジェンダーの社会化は、男女の生まれつきの違いを際立たせ、固定化し、恒常化し、強化するが、違いを生み出すわけではない。ジェンダーの社会化は性差の原因ではなく、結果である。では、何が原因なのか？異形配偶と受精卵が母胎内で育つことが原因である。異形配偶とは、雌の卵子が雄の精子よりも大きく、数が少ないことを意味する。異形配偶ということは、卵子の方が生物学的に精子よりもはるかに希少価値があることを意味する。自然界では、精子はふんだんに供給され、卵子よりも生産コストが低い。「精子は安い」ということが多くの動物に様々な性差をもたらしている。受精卵が母胎内で育つということは、何よりも雌は雄に比べてはるかに少ない子供しか作れないことを意味する。女性は1人の子供を作るのに少なくとも9ヶ月、通常は数年かかる（授乳期間中は通常、妊娠しないから）。男性は15分で済む。

異形配偶と母胎内で受精卵が育つことが合間って、重要な現象が生じる。それは、男と女で適応度（生涯繁殖成功度）のばらつきが違うということ現象である。適応度のばらつきとは、繁殖ゲームにおける「勝者」と「敗者」の格差、

勝ち組が繁殖の成功で負け組にどれほど差をつけられるか？である。適応度格差が男女で違うということは、適応度の最低ラインに位置する男：一生子供を作れない男の方が、一生子供を産めない女よりはるかに多いということである。男の方が適応度のばらつきが大きい。異形配偶と母胎内で受精卵が育つことで、理論上、男の方が適応度のばらつきが大きくなる。それによって実際もたらされるのは？自然の状態ではヒトの配偶関係はポリジェニー（一夫多妻）になるということである。進化の歴史を通じて、最近まで、ヒトの婚姻形態はさほど極端ではない一夫多妻であった。一夫多妻では、一部の男が「公平な分け前」以上の配偶相手を独占できる一方で、配偶相手を持ってない男たちも出てくる。そのため、女はほぼ全員生殖できるのに、男はそうはいかない。子供がゼロの男は比較的多く、女ではほとんどないのはそのためである。売春サービスの客はほとんど男であり、セックスを金で買う女性は極めて少ない。この性差は何に起因する？売春はなぜ世界最古の職業なのか？異形配偶と受精卵が母胎内で育つことから、男はできるだけ多くの女に性的に接近する方が、繁殖成功度が上がるが、女は性的に接近した相手の数がそのまま繁殖の成功につながるわけではない。男は年間1000人の女と関係を持てば、可能性として1000人、実際は年間30人程度の子供を作れる。（1回のセックスで妊娠する確率は約3%）女性はたとえ年間1000人の男とセックスしても、双子や三つ子を産まない限り、1年に1人しか子供をつくれず、1人の男と定期的にセックスするのと変わらない。1人の女性が1人の男性と100回（週2回、1年間）セックスして妊娠する確率は95%である。よって、男性と違って女性にとって、多くのセックスパートナーを持つ生物学的メリットはほとんどない。調査によれば、若い男が2年間に性的関係を持ちたいと思う女は8人くらいであるが、若い女が求めるのは1人である。売春という世界最古の職業は、多くの相手とセックスを求めたい男の願望であり、進化によって形成された欲望から生まれたものである。この職業が数千年も成り立ってきたのは、男にそうした欲望があるからである。一生につくれる子供の数が限られていることを考えると、望ましくない相手とのセックスの潜在的なリスクは女性の方がはるかに大きい。それゆえ女性は見ず知らずの相手とのセックスに非常に慎重である。女性はセックスに踏み切るまでに必要な交際期間は平均6ヶ月であるが、男性は平均わずか1週間で事足りる。つまり、女性にとって、ゆきずりの相手とのセックスは避けた方が無難である。しかも男たちの脳がポルノに登場する女と生身の女を識別できないように、女たちの脳も、ポルノに出てくる裸で性的に興奮した男たちと実際にセックスする可能性がないことを理解できない。セックスが男性の選択で自由にできるのなら、文明など生まれず、美術も文学も音楽もなく、ビートルズもマイクロソフトもなかったであ

ろう。男たちは女たちに自分の能力を誇示し、イエスと言ってもらいたいがために文明を築き、破壊してきた。全ては女のためなのである。スポーツで好成績を上げるのも、マネーゲームで稼ぐのも、選挙に出るのも、研究室でノーベル賞を目指すのも、男たちのすることほぼ全て、その根源には「女の気をひくため」という動機がある。そのような男のさが、女のさがに生物進化の視点で迫るのが進化心理学である。今回、女性の性的魅力として、若さと美しさだけを取り上げているが、パートナーに求めるのはそれだけではないことは言うまでもない。賢さや愛情深かさ等の良き母親となる資質も重要な要件となりうる。セックスの目的が繁殖だけではないことも言うまでもない。性的行為がコミュニケーション手段になっている。進化心理学のアイデアで「人間とは何か」という興味の尽きないテーマを考えるヒントにしてもらいたい。



●閉会点鐘 芝会長●